

BepiColombo/MMO の科学目的

Scientific objectives of BepiColombo/MMO

早川 基[1], 向井 利典[1]

Hajime Hayakawa[1], Toshifumi Mukai[1]

[1] 宇宙研

[1] ISAS

水星は太陽に最も近い惑星であり、太陽系の惑星の中では最後に形成された惑星であると考えられている。また、その大きさは月と火星との中間に位置する。水星はこの小ささにもかかわらずマリナー10号によるフライバイ観測から固有磁場を有している事が解っている。ESAが2009年の打ち上げを目指しているBepiColombo計画は2機の周回衛星と1機のランダーとを用いて水星に関して詳細な観測を行ない総合的な理解を得ようという野心的な計画である。本講演ではこの内の宇宙研が担当する事を期待されているMMO(Mercury Magnetospheric Orbiter)と呼ばれる水星の磁気圏探査を主目的とする周回衛星の科学目的を中心にBepiColombo計画に関して報告する。

水星は太陽に最も近い惑星であり、太陽系の惑星の中では最後に形成された惑星であると考えられている。また、その大きさは月と火星との中間に位置する。水星はこの小ささにもかかわらずマリナー10号によるフライバイ観測から固有磁場を有している事が解っている。ESAが2009年の打ち上げを目指しているBepiColombo計画は2機の周回衛星と1機のランダーとを用いて水星に関して詳細な観測を行ない総合的な理解を得ようという野心的な計画である。本講演ではこの内の宇宙研が担当する事を期待されているMMO(Mercury Magnetospheric Orbiter)と呼ばれる水星の磁気圏探査を主目的とする周回衛星の科学目的を中心にBepiColombo計画に関して報告する。